

# 世界社会フォーラムがワカル 12のポイント!

another world is possible

## 1. 「世界社会フォーラム(WSF)って何?

「もうひとつの世界は可能だ」を合言葉に世界の人びとが集まり、お互いの経験や意見を交換し合う市民フォーラムです。集まってくる人びとは多様そのもので、世界レベルの学者さんから評論家、世界で、地元で、NGOやネットワークで活動している人も。もちろんフツの個人も参加しています。毎年1回の「イベント」WSFに集まってくる人びとの目的はひとつ、

「もうひとつの(今とは異なった)世界」を創りあげよう。

大きくって漠然としています、**「どうやって創ろうか・・・?」**というところから話し合っています。

WSFが初めて開催されたのは2001年1月末。ブラジル南部の港町ポルトアレグレに、世界各地から約2万人が集まりました。2002年の第2回には5~6万人、そして第3回には10万人が集まって「もうひとつの世界」について議論がなされてきました。場所柄からラテンアメリカやヨーロッパからの参加が多かったのですが、今年2004年には開催地がインドへ移され、アジア(特に南アジア)からの参加が激増。世界各地から合計約12万人が駆けつけたのです。そして来年2005年は一再度ブラジル、ポルトアレグレ、です。

## 4. WSF開催地に選ばれた「ポルトアレグレ」ってどんな街???

ポルトアレグレはブラジル南部のヒョーグランジ・ド・スウ州の州都の港町。貧富の差が大きいながら社会運動が活発なことで知られているブラジルの中でも、ポルトアレグレはちょっと知られた街、というも「参加型予算」を採用しているからです。予算は普通、議員たちが決めるものですが、ここポルトアレグレでは住民たちが決めるのです。何に、いくら、そしてどの項目に優先順位を置くか、そのプランは?といった予算の使い道を、その受益者である住民たちが集まって決める「参加型予算」。こういったユニークな政策を発信する街ゆえに、ポルトアレグレが選ばれたのです。また今日では、世界から市民がたくさん集まる国際会議には、警察や軍隊などによる弾圧が公然化してきています。WSF開催は、労働者党(PT)政権のポルトアレグレ市なら安全に行うことができる、という要素もあったそうです。

## 2. 「もうひとつの世界」ってどういうこと? ~「人」を中心に置いた世界を~

新自由主義的グローバリズムに支配された世界ではない「もうひとつの世界」、ということ。

「グローバリゼーション」という言葉のもので、いわゆる先進国の経済や、多国籍企業の経営の論理が優先され、結果的には経営者や投資家といった一部の人々にだけ利益がもたらされています。世界の富の約80%を、わずか20%の人たちが所持している—そんな数字が明らかにするように、大多数の貧しい人たちが貧しいままに止め置かれている、という世界の現状があります。

そんな現状にNOの声をあげよう、そして、大企業の利潤ではなく「人」を中心に置いた社会、富が一部の人に集中する不公正な社会ではない「もうひとつの世界」をつくらう、という集まりが世界社会フォーラムです。

## 3. なんで「毎年1月」なの???

第一回WSFが開催された2001年1月以降、毎年1月末に開催されてきました。

ではなぜ1月?

実は、通称「ダボス会議」と呼ばれる世界経済フォーラム(WEF)と同じ時期に開催されているのです。米国の言語学者ノーム・チョムスキー氏が「Masters of Universe (“この世界のご主人様たち”の集まり)」と呼ぶ同フォーラム。経済界、産業界、先進国首脳陣・・・世界の経済を握っている人びとがスイスのダボスに集まり、閉ざされた空間で「世界の方針」が決定されています。ヨーロッパの高級リゾート地で決定される内容は一部の人びとにとって「公正」でも、世界の大多数にとっては「不公正」。「北」の国で「一部のトップの人びと」に決定権がある会議と同時期に、「南」で「世界の大多数の人びとと一緒に」世界のことを決めよう。このように「南」の国であるブラジルのポルトアレグレで開催されることになりました。

## 5. 数字にみるWSF (今までのWSFの様子)

2001年1月  
第1回WSF  
開催地:ポルトアレグレ  
(ブラジル)  
参加者:2万人  
参加国:117カ国

2002年1月  
第2回WSF  
開催地:ポルトアレグレ  
(ブラジル)  
参加者:6万人  
参加国:123カ国

2003年1月  
第3回WSF  
開催地:ポルトアレグレ  
(ブラジル)  
参加者:10万人  
参加国:130カ国

2004年1月  
第4回WSF  
開催地:ムンバイ  
(インド)  
参加者:12~15万人  
参加国:117カ国

2005年1月  
第5回WSF  
開催地:ポルトアレグレ  
(ブラジル)  
参加者:??万人  
参加国:??カ国

## 6. 実際会場では、どうなっているの？

いろいろなイベントが  
同時進行！

- 「コンファレンス」「パネルディスカッション」や「証言集会」と呼ばれる、数千人から数万人規模の“巨大イベント”が、一日に約10本企画される。(WSF事務局主催)
- 「自主企画」と呼ばれる企画が一日に200本ほど。これは数十人から数百人までの規模のイベント。参加者が申請し、企画されるもの。
- この他に、「ソーシャル・ムーブメント総会」や、「反戦ムーブメント総会」といった、同じテーマで活動している団体で集まるイベントも開催される。どんな共同アクションが可能か、など戦略を話す場も企画される。
- 会場には、ピースマーチで通りを練り歩く人びとや、様々な表現でデモンストレーションをするグループが。NGOのグッズや興味深い本なども売っていて、お祭りムードでわくわくする雰囲気。

## 7. 2004年WSF事務局主催では こんなテーマが話されました。(抜粋)

土地  
水  
食糧主権

メディア  
文化、知識

グローバリゼーション  
経済的社会的安全保障

宗教的  
民族的  
言語的排除と抑圧

軍事主義  
戦争と平和

米国のイラク占領と  
パレスチナ・  
アフガニスタンの  
問題

女性と  
グローバリゼーション

労働と  
仕事の世界

女性に対する戦争  
戦争に反対する女性

排除と抑圧  
人種主義と  
カースト制

**OXFAM:** 1942年にイギリスで設立された老舗の民間援助団体。フェアトレードの概念を普及させるなど、一方的な慈善活動にとどまらず、持続的な発展への道を探っている。90年代に多くのNGOが政策提言型に転換したときも主動的役割を果たす。

**Friend of the Earth International:** 世界最古の環境保護運動の一つシエラ・クラブの代表だったデヴィッド・ブラウアーを中心に、経済や社会の問題とも密接に関係した形でグローバルな環境問題を考えていこうと結成された。アムステルダムを本部に、世界68カ国に支部、100万人のサポーターを持つ。

**ヴィア・カンペシーナ:** ブラジルの土地なき農民運動、フランスの農民連盟、インドのKRRSなど、世界の約80カ国に加盟団体を持つ世界最大の農民団体ネットワーク。本部は中米ホンジュラス。

**パブリック・シチズン:** ラルフ・ネーダーによって設立されたアメリカで最も有名な消費者団体。社会より健康に気を使う金持ちのクラブと揶揄された時期もあったが、第三世界の団体とも協力して持続的発展の道を模索する運動へと発展。

**ATTAC:** アジア通貨危機をふまえて国際的な金融の動向を監視するためにフランスでつくられた。NGO間のネットワーク化にも力を入れており、社会フォーラムという制度の成立にも貢献した。

**第三世界ネットワーク:** マレーシアに拠点を置く老舗の消費者運動、ベナン消費者協会のシンクタンク部門。早くから遺伝子組換え作物の問題を指摘するなど、広範な研究活動と第三世界の運動のネットワークづくりを行っている。

**ジュピリー・サウス:** IMFの主導により進められた第三世界の経済改革のほとんどは破綻し、後にはGDPの数倍という膨大な債務が残された。これを帳消しにすることを求めるキャンペーンがジュピリー2000である。統一的なキャンペーンとしては一応の区切りを見せたが、日本の「途上国の債務と貧困ネットワーク」など、流れを汲む団体が各地で活動している。このうち、第三世界の40カ国85団体からなる連合体がジュピリー・サウスである。

## 8. 国際社会で活躍する、 こんな団体が力を入れています。

## 9. 日本からの参加は？

- 第1回2001年 ?
- 第2回2002年 数人
- 第3回2003年 約70人  
(ピースボート、ATTAC-JAPANなど)
- 第4回2004年 約500人  
(ピースボート/CHANCE! pono2/グローバル・ヴィレッジ/ATTAC 京都/ナマケモノ倶楽部/在日コリアン青年連合 (KEY)/人権アクティビストの会/国際青年環境NGOSAGE/大阪自由学校「ぼちぼち」/PEACE NOW KOREA JAPAN/Body And Soul/BeGood Cafe/パルカルチャーネットワーク九州/ATTAC-JAPAN/IMADR (反差別国際運動)/ピープルズプラン研究所/PARC/日本ジャーナリスト会議/レイバーネット/SWASH/原水協/原水禁/JR総連/ネットワーク『地球村』/連合などー順不同)

## 11. こんな著名人が参加しました（2001～2004まで）

## 10. WSFの成果って何？

社会フォーラム最大の成果は、これまで別々の課題として考えられてきた環境、貧困、差別、戦争などの問題を共通の土俵上で、相互に関連した問題として議論できるようになったことです。

社会フォーラムは多様性を重視した集まりであり、全体でなんらかの方向性を確認したり、声明を採択することはありません。参加した団体と個人が、共通の問題に取り組む各国の参加者と議論し、その場所でなにかをつかみ取り、また帰国後も連絡を取り合うことで自分の運動に生かしていくための場であると考えられています。

しかし、せっかく世界中から人々が集まってくる機会ですので、グローバル化の問題と戦争という二つの問題については、有志団体が集まって集会を開き、議論の中で声明が起草されてきました。これらの声明はインターネットを通じて世界中に配信され、未参加の団体も署名することができるようになってきました。また、反戦デモや農民デーなどの全世界同時行動でなにをするかも、世界社会フォーラムで話し合われます。

また、四回を終えた反省などをふまえて、今後より実践的な活動を展開するために、テーマ別フォーラムを開くなど、より詳細な議論を行っていく方法も模索されています。

- ▶ノーム・チョムスキー（米国の言語学者）
- ▶イニャシオ・ラモネ（仏「ル・モンド・ディプロマティック」紙編集総長）
- ▶ナオミ・クライン（「今35歳以下で最も世界で影響力のある」（英タイムズ紙）カナダのジャーナリスト）
- ▶ラルフ・ネーダー（アメリカの消費者運動のリーダー）
- ▶リゴベルタ・メンチュウ（グアテマラの先住民族で人権活動家。1992年にノーベル平和賞受賞）
- ▶サミール・アミン（新従属論のリーダーとして知られたエジプトの政治経済学者）
- ▶ジョゼ・ボヴェ（フランスの農民活動家でマクドナルド襲撃事件で世界的に有名になった）
- ▶ベルナルド・カッセン（フランス。ルモンド・ディプロマティック誌の編集長でATTAC International代表）
- ▶ラファエル・アレグリア（世界最大の農民団体であるヴィア・カンペシーナ（農民の道）の代表）
- ▶モード・バーロウ（カナダ。21世紀で最も深刻な社会問題と言われる水問題の第一人者）
- ▶アーメッド・ベン＝ベラ（アルジェリア独立戦争の闘士で初代大統領も務めた）
- ▶ウォールデン・ペロー（第三世界を代表するシンクタンク、フォーカス・オン・グローバルサウス代表）
- ▶ジェレミー・コービン（英労働党に属する反戦運動家）
- ▶シリム・エバディ（2003年のノーベル平和賞受賞者、イラン）
- ▶トリン・ミン・ハ（映画監督でありフェミニスト批評家として著名）
- ▶メーダ・パトカル（ナルマダ・ダム計画への反対運動で国際的に知られるインド環境運動リーダー）
- ▶メアリー・ロビンソン（前アイルランド大統領で国連人権高等弁務官）
- ▶アルンダティ・ロイ（ブッカー賞作家で、インドに於けるグローバリゼーション問題の最大の論客）
- ▶ヴァンダナ・シヴァ（緑の革命の弊害を指摘して国際的に知られた、環境活動家）
- ▶イマニュエル・ウォーラスティン（世界システム論の大家）
- ▶ジョセフ・スティグリッツ（2001年ノーベル経済学賞受賞者、97年～世界銀行のチーフ・エコノミスト兼上級副総裁として働いた経験を持ちながら、グローバリズムを批判）

## 12. ～もっと知りたい！！～ 参考資料

### ホームページより

#### ■インドのWSF（第4回）のホームページ

<http://www.wsfindia.org/>

→2004年にインド・ムンバイで開催された第4回WSFの情報ならここ。イベント・プログラムからプレスリリースから全て見ることができます！ただし英語のみ。。。

#### ■ポルトアレグレとWSF事務局のホームページ

<http://www.forumsocialmundial.org.br/home.asp>

→ブラジル南部のポルトアレグレで開催された第1回から第3回WSF、そして第5回へ向けた情報ならここ。世界の著名運動家から学者さんまで、WSFについての論文が満載！

「今どういう動きがある」もつぶさにチェックできます。ただし英語とスペイン語、ポルトガル語、フランス語のみ。。。

#### ■第4回WSFの評価に関する論文多数

→いったいWSFとは何なのか？そしてどういう方向へ行くべき？！について、世界の著名人から活動家が論評。

[http://www.forumsocialmundial.org.br/dinamic.asp?pagina=balancos\\_fsm2004\\_por](http://www.forumsocialmundial.org.br/dinamic.asp?pagina=balancos_fsm2004_por)

#### ■「WSF日本連絡会」のホームページ

[http://www.jca.apc.org/wsf\\_support/index\\_j.html](http://www.jca.apc.org/wsf_support/index_j.html)

→日本からWSFに参加した団体で構成するネットワーク「WSF日本連絡会」のホームページ。日本語での情報満載。リンク集も活用したい。

#### ■ヤパーナ・ソーシャル・フォーラム

<http://www.kcn.ne.jp/~gauss/jsf/>

→日本語でなら、ここでもかなりたくさんの情報が得られます。WSF憲章の日本語訳もあり。

■「もうひとつの世界は可能だー世界社会フォーラムとグローバル化への民衆のオルタナティブ  
ウィリアム・F. フィッシャー（編集） 日本経済評論社  
2003年12月

■「利潤か人間かーグローバル化の実態と新しい社会運動」  
北沢洋子 コモンズ 2003年03月

■「金儲けがすべてでいいのか」  
ノーム・チョムスキー 文藝春秋 2002年09月

■「地球は売り物じゃない！- ジャックフードと闘う農民たち」  
ジョゼ・ボヴェ 紀伊国屋書店 2001年04月

■「世界を不幸にしたグローバリズムの正体」  
ジョセフ・スティグリッツ 徳間書店 2002年05月

■NHKスペシャル「変革の世紀」〈1〉市民・組織・英知  
日本放送出版協会 2002年11月

■「脱グローバル化ー新しい世界経済体制の構築へ向けて」  
ウォールデン・ペロー 明石書店 2004年04月

## お問い合わせは・・・

ピースボート（東京事務局）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-14-3-2F  
TEL: 03-3363-7561, 03-3363-8047 FAX: 03-3363-7562

E-mail: [pbglobal@peaceboat.gr.jp](mailto:pbglobal@peaceboat.gr.jp)  
URL <http://www.peaceboat.org>